

OECD東南アジア地域プログラム（SEARP）閣僚会合
共同コミュニケ「人間中心の未来：よりスマートでグリーンかつ包摂的なASEANに
向けたパートナーシップ」
（概要）

【冒頭】

- 2018年3月以降のSEARP共同議長としての韓国及びタイの積極的な関与及びリーダーシップに感謝。
- SEARPがOECDと東南アジア各国の間で、相互に関心のある優先分野のスタンダード、政策やグッドプラクティスを共有するプラットフォームに発展したことを認識。
- OECDが東南アジア地域を戦略的優先地域であると再確認したことを強調。
- コロナ禍からの回復なくして、経済回復はなし得ないことを再確認。コロナは社会的格差を拡大し、人々の生活、仕事、交流に影響を与えたことに留意。
- ASEAN包括的復興枠組み（ACRF）及びその実施は、同地域における迅速かつ持続可能な復興を促進するための重要なロードマップである。

【包摂的な未来に向けたよりスマートなASEANの構築】

- 新型コロナウイルスはデジタル経済への移行を加速させたことに留意し、OECDのデジタル・トランスフォーメーション活用の取組を評価。
- デジタル経済の十分な活用には不可欠な、包摂的なデジタルに対する信頼の実現のためのAI原則や「信頼性のある自由なデータ流通」（DFFT）などのOECDの取組に留意。
- 人材育成が包摂的かつ持続可能な回復のための鍵であることを再確認。ACRFの広範な戦略の一つである「人間の安全保障」の強化に資する教育・技能政策を特に重視。
- 東南アジアにおいて、持続可能な投資と強じんなサプライチェーンを可能にするために、責任ある企業行動（RBC）に関する一貫性のある政策の重要性を強調。

【より強じんなASEANに向けたグリーンな回復の実現】

- OECDは、東南アジア諸国がより強じんな経済を発展させ、今世紀半ば頃までに温室効果ガス排出実質ゼロを達成することを積極的に支援していることに留意。
- 東南アジアにおいて、強じんで包摂的かつ持続可能な開発を実現するために、質の高いインフラ投資の重要性を再確認。
- イノベーションとデジタル・トランスフォーメーションがグリーンな移行を実現し、気候変動対策の目標を達成するための重要な要素であることを認識。

【今後に向けて】

- SEARPが東南アジアの地域統合強化と国内改革における優先事項の支援に貢献するとともに、OECDとASEANとがお互いの距離を縮めたことを再確認。
- 地域内のすべての国にとってパンデミック後の復興の必要性を認識し、今後3年間、持続可能な経済回復をSEARPの優先事項とすることに同意。
- SEARPの効果的かつ持続可能な実施促進において、ADB、UNESCAP、APEC、AMRO、ERIAなどの地域のパートナー組織及び開発機関並びにOECD東京センターの知見を活用する重要性を認識。
- 豪州及びベトナムを2022-2025年のSEARP共同議長として歓迎。